

モーニングシンポジウム

12月11日(土) 8:30~9:30 第5会場(1001-2)

M-1 長期服薬中の代謝異常とその対策 —医師に必要な視点と患者の経験—

■司 会：菊池恵美子(国立病院機構名古屋医療センター・財団法人エイズ予防財団)

■演 者：味澤 篤(東京都立駒込病院感染症科)

Highly active antiretroviral therapy (HAART) により、HIV 感染者の生命予後は劇的に改善した。しかし HAART を長期間行うことによる、あるいは HIV 感染後の生存期間が延長されるにしたがって、種々の代謝障害が大きな問題となってきている。高脂血症や糖尿病で治療を受けている HIV 感染者数は、当院でも増加傾向にある。また心筋梗塞や脳梗塞などを合併する例もみられてきている。

HAART およびに伴う HIV 感染症に伴う代謝異常としては、

1. 高脂血症
2. 糖尿病(インスリン抵抗性)
3. リポジストロフィー(脂肪集積・脂肪萎縮)
4. 乳酸アシドーシス
5. 末梢神経炎
6. 骨軟化症、骨粗しょう症

などが代表的なものであるが、特に 1~3 は相互に複雑に関係している。

ここでは症例を何例かとりあげて、長期服薬中の代謝異常とその対策について考えてみたい。

■症例 1

60 代男性

1999 年にカリニ肺炎を発症し、HIV 感染症が判明した。B 型肝炎も合併していたため、d4T+ddI+NFV で HAART を開始したところ 11kg 減少していた体重も改善した。しかし治療開始 1 年後より、体重が減少傾向になり食事を多く摂取するようになった。2002 年に HbA1c が軽度増加し糖尿病が疑われたため、食事指導を行い同時に NFV を EFV に変更した。しかし体重は漸減傾向のため、食事量を増加させていた。2003 年秋頃より糖尿病がさらに悪化し体重が減少したため教育および治療薬変更目的で入院し ABC+3TC+EFV に変更した。糖尿病は安定したが、体重は軽度増加にとどまっている。

■症例 2

40 代男性

1997 年前に近医で HIV 感染症が判明した。HIV-RNA 高値のため AZT+3TC で治療を開始するも HIV-RNA が検出限界以下にならないため 1998 年より d4T+3TC+RTV に変更した。HIV-RNA は検出感度以下となったが、顔のやせと脂肪肝悪化のため、1999 年に d4T+3TC+NFV に変更した。悪化傾向が続くため 2000 年より d4T+ABC+EFV に変更した。し

かし脂肪肝は軽快しないため 2001 年より HAART を中止した。その後脂肪肝は徐々に改善傾向にある。また自覚的に顔のやせもいくぶん改善しつつある。

M-2 対 談：パトリックの経験と気持ち

聞き手：菊池恵美子（国立病院機構名古屋医療センター・財団法人エイズ予防財団）

話し手：パトリック ボンマリート（クラブ DJ・アクティビスト）

長期服薬による代謝異常を予防する上で、運動や食事を正しく取ることが必要です。陽性者が考えて行動していることを共有することで、今後の指導の参考にしていただければと思います。

この対談では、自分の病気に興味を持ち自分で行動することが大事なこと、運動や食事など普段の生活の中で気をつけていること、薬を飲みつづけるために必要な情報やサポートしてほしいこと、成長ホルモンを使ったときの体の変化とそのときの気持ちなど、クラブ DJ でアクティビストのパトリックが、等身大の意見を話します。

■共 催：セローノ・ジャパン（株）